

--	--	--	--	--

パンデミックで見た課題と近未来像—

ポストコロナの自治体政策リ・デザイン

～2040年問題対応、都市・地方の「人」の流れ、社会・産業活動のデザイン、都市・交通政策の新常態～

□人口減少・アフターコロナの地方自治—可能性と2040年問題の克服

■パンデミックで見た近未来—東京—極集中と人口問題と定住・移住・交流・関係

□ポストコロナの社会・産業活動のデザイン—新しい情報化社会のシステムと人材

■ニューノーマル時代の都市・交通政策—分散型国土とハイブリッドシティの方向性

2020年12月22日(火) 10:00～16:50

剛堂会館 会議室(東京・千代田区)

【講師陣】

牧原 出 氏/東京大学先端科学技術研究センター教授

山下 祐介 氏/東京都立大学人文科学研究科教授

江崎 浩 氏/東京大学大学院情報理工学系研究科教授

谷口 守 氏/筑波大学大学院システム情報系社会工学域教授

《新型コロナウイルス感染症に伴うセミナー開催への対応について》

予防対策として、座席の間隔を空け、定期的な換気・アルコール消毒の実施等を行います。
手洗いやマスク着用等にご協力下さい。

■ 会 場：剛堂会館・会議室

東京都千代田区紀尾井町3-27

(案内図は申込後送付)

■ 参加費(1名分)

	1名参加	メディア参加
行政・議員	25,000円	28,000円
一 般	35,000円	38,000円

■ 支払方法：請求後の振込・郵便振替・当日払い

みずほ銀行麹町支店 普通1159880

三井住友銀行麹町支店 普通7411658

三菱UFJ銀行神田支店 普通5829767

郵便振替:00110-8-81660 口座名:株地域科学研究会

■ 申込方法：下記の申込書に所要事項を記入の上送付下さい
(FAX・郵送・メール等)

請求書等書類が不要の方は開催日までに上記口座へ振込をお願いします

(受講証/会場地図はFAX送信)。書類が必要な方には受講証と共に郵送し

ますので到着後にお支払いをお願いします。領収書が必要な方には当日

受付でお渡し致します(日付、但書等の留意点があれば明記下さい)。

①メディア参加申込みの方へは、研修会終了後にCD(講演収録・音声のみ)及び資料と請求書をお送りいたします。②参加費の払い戻しは致しませんので、申込まれた方のご都合が悪い場合は代理の方のご出席またはメディア参加とさせていただきます。

お申し込み・お問い合わせ

あすの街と村を考える

地域科学研究会

東京都千代田区平河町2-3-10ライオンズマンション平河町101

TEL03(3234)1231 FAX03(3234)4993 〒102-0082

http://chiikikagaku-k.co.jp/

【申込書】 FAX：03-3234-4993 Email：machi@chiikikagaku-k.co.jp

2020年 月 日

■ 研修会 『ポストコロナの自治体政策リ・デザイン』

□当日参加 □メディア参加

勤務先

連絡担当者

所在地〒

TEL

参加者氏名

所属部課役職名

FAX

Email

〈通信欄〉○を付けて下さい

支払方法(請求後の振込・郵便振替・当日払い)

必要書類(納品書・請求書・見積書・領収書)

請求書等宛先名:

※ご記入いただいた個人情報は、当会の活動(セミナー・出版等の申込受付、連絡、請求、案内等)のみに使用させていただきます。

時	講義内容
10:00 ～ 11:20	<p>人口減とアフターコロナの地方自治</p> <p>東京大学先端科学技術研究センター教授 牧原 出 氏</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第3 2次地方制度調査会と人口減下の地方自治 2. 新型コロナウイルス感染症と地方自治の可能性 3. いわゆる2040年問題をどう乗り切るか? <p style="text-align: right;">《質疑応答》</p>
<p>【牧原 出氏プロフィール】専門は、行政学。東京大学法学部助手、東北大学法学部助教授等を経て、2013年より現職。著書に「崩れる政治を立て直す 21世紀の日本行政改革論」等多数ある他、世田谷区・自治体経営のあり方研究会座長、内閣府・地方制度調査会委員等を務める。</p>	
11:30 ～ 13:00	<p>ポストコロナに都市・地方の人の流れはどう変わるか ～パンデミックで見た未来の二つの顔～</p> <p>東京都立大学人文科学研究科教授 山下 祐介 氏</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新型コロナ対策のなかの中央と地方 <ol style="list-style-type: none"> (1) パンデミックと都市 (2) 中央と地方、政治と科学 2. 大災害後に現れる現実と、地方・地域の持続可能性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 災害と被害：支援と補償 (2) 復旧と復興 3. 人の流れをだれがどう水路づけるのか～国の統治と地方の再生 <ol style="list-style-type: none"> (1) 東京一極集中と人口問題 (2) 定住／移住／交流／関係 <p style="text-align: right;">《質疑応答》</p>
<p>【山下 祐介氏プロフィール】専門は地域社会学、環境社会学。九州大学大学院文学研究科社会学専攻博士課程中退。弘前大学准教授などを経て、現職。著書に「限界集落の真実 過疎の村は消えるか?」「地方消滅の罫 増田レポートと人口減少社会の正体」等多数。</p>	
14:00 ～ 15:20	<p>ポストコロナの社会・産業活動をどうデザインするか ～「ポストコロナの新たな情報化社会の提言」を踏まえて～</p> <p>東京大学大学院情報理工学系研究科教授 江崎 浩 氏</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コロナ禍発生以前の社会動向 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会構造の変化 (2) 情報空間の拡大 (3) 国際標準の消滅 2. コロナ禍の教訓 <ol style="list-style-type: none"> (1) 情報インフラの貢献 (2) 短期利益主導の脆弱性 (3) 時間とリアル空間の重要性の再認識 3. ポストコロナ社会に向けて <ol style="list-style-type: none"> (1) もとのシステムに戻さない (2) 新しいKPIの導入(多利主義、対称性) (3) 戦略的調達 (4) Information Society by Design (5) 新しい社会を先導する人材 (6) 政治から干渉されないグローバルなアカデミックコミュニティ <p style="text-align: right;">《質疑応答》</p>
<p>【江崎 浩氏プロフィール】九州大学工学研究科電子工学専攻修士課程修了。東芝、米国ベルコア社、コロムビア大学等でATMネットワーク制御技術、高速インターネットアーキテクチャの研究に従事。1998年10月、東京大学大型計算機センター助教授、2005年4月より現職。WIDEプロジェクト代表。東大グリーンICTプロジェクト代表、IPv6普及・高度化推進協議会専務理事、JPNIC副理事長などを務める。</p>	
15:30 ～ 16:50	<p>Beyondコロナの都市・交通政策 ～分散型国土とコンパクトシティのディスタンス～</p> <p>筑波大学大学院システム情報系社会工学域教授 谷口 守 氏</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ニューノーマルという名のオールドアブノーマル <ol style="list-style-type: none"> (1) スペイン風邪に学ぶ (2) 戻ること・戻らないこと 2. 交通行動・交通機関への影響 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生活行動調査の結果から (2) 交通機関への影響 (3) 今後の方向性 3. 分散型国土とコンパクトシティの関係性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 分散型国土を吟味する (2) 関係人口の可能性 (3) 都市のかたちを再考する 4. 新たなスリーマグネット論 <ol style="list-style-type: none"> (1) サイバースペース・マネジメント (2) ハイブリッドシティの方向性 <p style="text-align: right;">《質疑応答》</p>
<p>【谷口 守氏プロフィール】京都大学大学院工学研究科博士後期課程単位修得退学。カリフォルニア大学バークレイ校客員研究員、ノルウェー王立都市地域研究所文部省在外研究員、岡山大学環境理工学部教授等を経て、現職。工学博士。国土審議会・社会資本整備審議会・交通政策審議会専門委員、日本都市計画学会学術委員長・理事などを歴任。専門は都市地域計画、交通計画、環境計画。「世界のコンパクトシティ、都市を賢く縮退するしくみと効果」(2019、学芸出版社、編著)</p>	